

東部の指導だより

東部教育事務所
 学校教育係発行第13号
 平成28年3月22日

授業力の向上を図る、授業研究会の実施 ～板倉南小の取組～

実効性の高い校内研修にするためには、研修主題と副主題を毎日の授業レベルまで落とし込んで実践することが大切です。そのためには、研修主題と副主題から研修のねらいを設定し、さらに具体化した研修の見通しや研修の内容を基にした、日々の授業実践の積み重ねが必要になってきます。

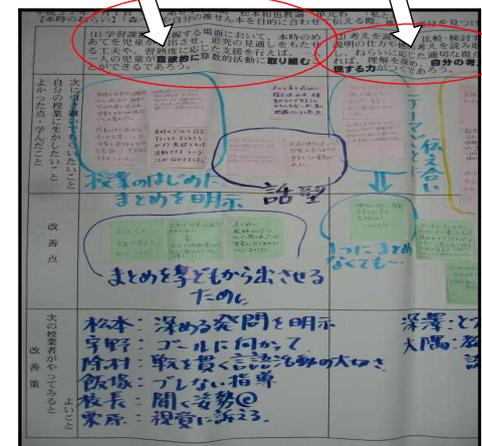
そこで、自校の校内研修の推進について、もう一度振り返っていただければと考え、授業力の向上に向けて効果的な授業研究会を行っている、板倉町立南小学校の取組を紹介します。

研修主題 自ら学び、考え、思いを表現できる児童の育成
副主題 ～算数科における、考えを説明し、比較・検討する活動の充実を通して～

研修の見通し
 算数科における学習指導において、次のような手立てをとれば、自ら学び、考え、思いを表現できる児童が育つであろう。

- (1) 学習課題を把握する場面において、本時のめあてを児童から出させ、追究の見通しをもたせる工夫や習熟度に応じた支援を行えば、一人一人の児童が意欲的に算数的活動に取り組むことができるであろう。
- (2) 考えを説明し、比較・検討する場面において、説明の仕方や他の考えを読み取らせる活動を工夫し、ねらいに応じた適切な視点で比較・検討させれば、理解を深め、自分の考えを分かりやすく表現する力がつくであろう。

研修の見通しから、参観(協議)の視点を設定すると、手だての有効性を検証することができます。(概念化シートの活用)



○研修の見通しから、参観(協議)の視点を設定する

研修主題と副主題を具体化した校内研修の見通しから参観(協議)の視点を設定し、手だての有効性について協議していきます。このようにすることで、本時の授業の成果と課題を明確にして研修の検証につながる協議を行うことができます(右図参照)

○校内研修と直結した授業実践の積み重ね

一人1実践授業についても、校内研修の推進計画に位置付け、参観(協議)の視点に沿って協議しています。その際、「今日の授業から学んだこと、自分の授業に生かしたいこと」→「改善点」→「明日からの授業でできること」について付箋に書いて概念化シートに貼りながら意見を出し合い、最後に授業者が「次の授業者に引き継ぎたいこと」を提言するようになっています。(右図、表参照)

実施日・学年・教科	授業者	単元名・題材名	成果・課題・次の授業者に引き継ぎたいこと等
6月25日 6年国語	A	私と本	(1)児童の意欲化につながる手立て (2)自分の考えを分かりやすく伝える力を伸ばす手立て
7月7日 5年算数	B	合同な図形	・本時の教材文で学んだことをその時間の終わりに単元を貫く言語活動に生かすことで意欲化につながった。 ・めあてを児童から出させたこと。全体で追究の見通しを十分もたせたことが児童の意欲化につながった。
10月8日 2年算数	C	筆算のたし算ひき算	・めあてだけでなく、まとも「今日わかったことは?」と一人一人の児童に出させることが意欲につながった。
10月19日 5年算数	D	分数	・めあて、まともを児童が言葉にすることができつつあり、毎時間の積み上げの成果が見られた。

このようにして、授業力の向上を図り、成果を上げています。

※ 東部教育事務所の Web ページにも、資料が掲載されていますので、参考にしてください。

○東部の指導だより第4号 (<http://www.tobu.gsn.ed.jp/shidoudayori/shidoudayori4.pdf>)

○後期学校訪問に向けた「校(園)内研修計画書(中間報告書)」の書き方

(http://www.nc.tobu.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=138)

県教委指定「確かな学力」研究推進校事業の取組

東部管内では、4つの小中学校が指定を受け、全校体制で学力向上に取り組んできました。各指定校の取組の概要をまとめましたので、自校の学力向上の参考にしてください。

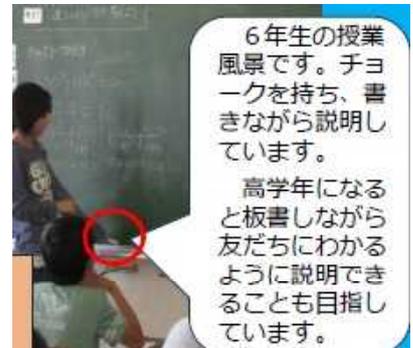
<太田市立城西小学校>

①組織的な取組による学習環境づくり

- ・授業のつくり方を年度当初に全職員で共通理解し、徹底して取り組んだ。また、児童の発言に教師が問い返し、子どもたちが説明をつなげ、考えを深める場面を意図的につくってきた。

②一人一人の授業力の向上

- ・研究主題を基に個人テーマを設定し、『構想→中間報告→まとめ』の各段階で報告・検討し合いながら教師一人一人の力を鍛えている。
- ・全学年板書の形式は、左に学習問題を書き、そこからめあてを児童と一緒に作り、個での追究、集団解決、最後に児童の言葉を生かしてまとめをした。
- ・全学年の各クラスの児童が書いたノートを見合う機会を校内研修の時間に設け、指導の工夫や児童の変容等を話し合いながら、発達段階や学年の実態に合ったノートづくりができるようにした。



③家庭との連携

- ・『自学ノート』により、その日の学習を振り返り、学習内容の定着を図る。特に算数では、問題の数値を変えてまとめ直したりするなどの自学に取り組むよう指導を行っている。



全職員共通理解の下、学級経営を基盤とした「授業力の向上」を目指し、上記の3つの視点で組織的・継続的に取り組んだことで、学年や指導者が替わっても児童が戸惑うことなく一人一人の「確かな学び」につながり、6年間の学びが積み上げられています。

<館林市立第三小学校>

①指導体制の工夫・改善（右図参照）

- ・学力向上委員会では、指導体制の調整・確認（時数、TT活用等の授業参加）だけではなく、情報収集と資料提供、児童の実態把握と課題に対する解決策の検討（授業・学習規律・補習時間と内容・家庭学習等）も行っている。
- ・学力向上委員会において校内研修との関わりを明確化し、教科担当制部会（毎月1回）や学年ブロック部会との連携を密にして取り組んだことで、指導方法（TT・少人数指導の在り方等）の検討、教材研究と教材準備の充実、専門外教科の指導法の習得を含めた専門性の向上が図れた。

平成27年度 教科担当制の計画

	4年		5年		6年		理科 専科	算数専科 学力CO	音楽 専科	教科 免許
	1組	2組	1組	2組	1組	2組				
担任			C	G	A	B	E	D	F	
時数	24.6	24.6	24	21	24	20.8	24	20	23.2	
国語			A	A	A	A				有
社会			B	B	B	B				有
算数			C	C	C	C				無
			D	D	D	D				有
理科			(G)	(G)						
	E	E	E	E	E	E				有
音楽	(担任)	(担任)	(G)	(G)	(B)	(B)				
図工	F	F	F	F	F	F				有
体育			G	G	G	G				有
家庭 生活			G	G	G	G				
			(B)	(B)	(B)	(B)				
外国語 活動			F	F	F	F				無
クラブ 委員会			B	B	B	B				無
					O	O	O		O	

②授業の改善・充実

- ・「確かな学力」の定着に向けて、「習得」→「定着」→「活用」の流れを意識した授業づくりを行う中で、きめ細やかな指導や単元を見通した指導を充実させた。
- ・「活用」に視点を当てた授業を行うに当たって、「授業の改善・充実のための取組」を各教科で作成し、既習事項と結びつけて表現したり、意見交流しながら考えを深めたりできるようにした。



専門性を重視した教科担当制を実践したことで、「早くやりたい。」「もっとやりたい。」という進んで考えたり表現したりしようとする姿や、問題解決に向けて話し合ったりする姿がみられるようになり、CRT学力検査や単元テスト等でも成果が出ています。

<桐生市立清流中学校>

①授業・補習体制の工夫・改善・充実

- ・「考え、表現させる」授業の充実を図るために、授業の基本イメージを考え（右図参照）、今年度は、「考える場の設定」特に「各教科における交流活動」を重点に、「課題を解決させるための効果的な手だて」について実践した。
- ・基本的な学習や発展的な学習に取り組む「放課後学習会」（3年生は週3回、他は週1回）や、家庭学習の方法や苦手教科の克服等を相談する「学習相談会」、定期テスト前に質問する「テスト前学習会」を実施した。

②教員の指導力の向上

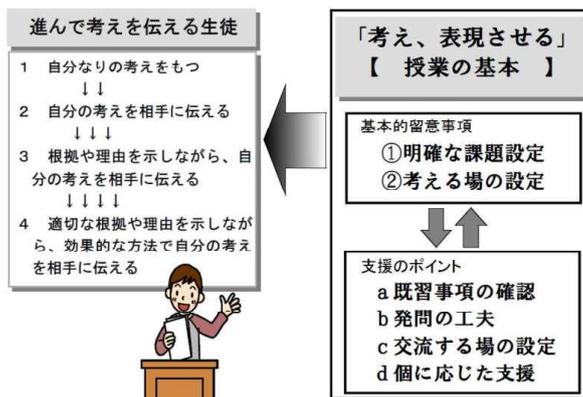
- ・先進校視察内容の全職員への周知や、外部講師の招聘など、指導力向上を図った。また、模擬授業を積極的に行い、授業づくりについて話し合える場を設定し、ベテランを核にして若い世代を育てるという体制をつくった。

③家庭との連携

- ・学習習慣を確立させるために、学校での具体的な学び方等を伝える「学びの道」を、定期的に各家庭に配布した。また、「学問のすすめ」を、家庭学習の方法やノートの取り方等、図解を入れて、より分かりやすくなるよう改訂した。



授業や補習体制を工夫した組織的な取組が全教科へも広がり、先生方も生徒も学力向上への意識が高まっています。全国学力・学習状況調査では、国語・数学・理科で全国平均を上回り、全教科で取組の成果が出ています。



<邑楽町立邑楽中学校>

①教職員の指導力向上と授業改善（右図参照）

- ・全職員が「めあて」を生徒のつぶやきや意見を集約しながら設定することを意識し、本時で学習する内容を生徒につかませたことで、生徒が「何を学ぶのか」を常に意識できるようにしている。
- ・管理職、教務主任、学力向上コーディネーター、研修主任は、機会あるごとに授業参観を行って、授業改善に係る支援を行ってきた。また、導入や振り返りに視点を絞って参観できる部分参観（「ふらっと参観」）を実施し、誰でも授業参観を可能とした。

②家庭・地域との連携

- ・個別の取組の確認や保護者への啓発を行い、「予習⇒授業⇒復習」サイクルを定着させるために『予習・復習のススメ』を配布している。予習してきたことが授業の中で生きるよう指導を心がけた。



授業後の「授業検討会」を必ず行うことで、良さ、改善点をすぐに共有できたことは授業改善に役立ちました。NRT検査では3年生で向上が見られ、邑楽町基礎基本学習確認テストでは、国語の平均点が向上しました。低位層の割合が減ったことが大きな要因であり、基礎学力の確実な定着が図れています。



○今後の研究推進校の予定について

4校とも、来年度は取組が最終年度となります。管内だけではなく、県内に取組の公開を行っていく予定です。紙面では紹介しきれない取組もたくさんありますので、自校の学力向上に生かせるようにするためにも、直接、先生方の目で具体的な実践を参観してください。